

地域リハビリテーションケース会議50回記念シンポジウム
令和6年1月27日

「地域リハビリテーションケース会議」が 果たしてきた役割 ～20年間の歩みと今後の課題～

ケース会議・コーディネーター 北九州市地域リハビリテーション推進会議代表
老人保健施設伸寿苑施設長 小倉リハビリテーション病院名誉院長
日本リハビリテーション病院・施設協会名誉会長

浜村明徳

1. 地域リハビリテーションケース会議発足の経緯

- 前任地の長崎では市内や離島、県内の地域リハ推進に携わり、1998年、小倉に赴任した
 - 当時、私が感じていた**北九州におけるリハビリテーションの特徴**
 - ① 「産業医科大学」に、全国でも数少ないリハ科を持つ
 - ② 「九州労災病院」は、全国のリハ医学をリードする立場
 - ③ 小児のリハでは、「北九州市総合療育センター」があり、全国3大センターの一つ
 - ④ リハ専門職育成校として「九州リハ大学校」があり、全国に専門職を輩出
 - ⑤ 区役所等「行政にリハ専門職を配置」、先駆的取り組みの実践 など
 - 赴任間もなく、北九州におけるリハの在り方を検討する会 (?) に呼ばれたと記憶
 - **2003年**、行政が事務局となり、「**地域リハビリテーションケース会議**」発足
 - 行政が主導する地域リハ推進体制は全国でも極めて稀、今日まで継続できた最大の要因と考える
 - その後、2006年頃、「北九州リハ支援体制検討委員会」が開かれ、継続される
- ※ 以上に関する詳細は、橋元先生からご紹介いただく予定

2. 地域リハビリテーションケース会議、20年間の取り組み

① ケースとして取り上げた疾患等

疾患等	事例で取り上げた疾患内容等	回数
頭部外傷	頭部外傷（肢体不自由＋高次脳機能障害）	3
脳卒中	脳梗塞（視覚障害＋片麻痺＋知的障害）	3
	脳梗塞	2
	壮年期片麻痺	2
	脳卒中 回復期病院から自宅退院したケース	1
高次脳	高次脳機能障害	2
頸損	交通事故による中心性頸髄損傷	2
難病等	筋萎縮性側索硬化症	2
	大脳皮質基底核変性症の方に対する訪問リハビリテーションでの関わり	2
	関節リウマチの方の在宅支援	1
	進行性重度障がい者の食支援におけるチームアプローチ	1
	進行性神経難病者とその家族に伴走する支援について考える	1
骨折	大腿骨頸部骨折	2
	重複障害（視覚・聴覚）の骨折後	2
呼吸	慢性呼吸不全	1
	在宅生活を支えるための呼吸リハビリテーション	1
廃用	廃用症候群	2
嚥下障害	嚥下障害を伴う高齢者	1

② 取り上げたテーマと内容等

テーマ	内容等
その人らしさの支援	高齢夫婦の生活支援～その人らしい生活を支えていく支援～
	「できる限り自分らしく」の想いに応える支援 = 地域でどう支えるか =
	その人らしい暮らしを再構築する支援
	私らしい「活動」や「参加」ってなんだろう
	その人らしい生活を継続するために、今をどうするか、次につながる支援について考える～パーキンソン病の事例を通して～
多職種連携 地域連携	医療から介護、福祉、そして地域へ
	障害者施設から在宅生活へ
	医療と介護の連携がうまく図れた事例
	「医療機関と就労支援施設との連携」～高次脳機能障害の事例を通して～
	地域生活の継続を目指した多職種連携
	"リハビリテーション会議を通して多職種協働でIADLの改善が図れた事例
	重度神経難病者のチームケア リハビリ相談支援事業をとおして自立に向けたケアマネジメントを考える～多職種協働による効果～
サービス	短時間通所リハビリテーションを活用しているケース
	通所リハビリテーションからの卒業を考える
	小規模多機能型居宅介護サービスの利用による奏功事
	短期集中予防型（サービスC）を利用した事例を通じて、地域につなぐ支援を考える
地域づくり	地域の力を育む支援～リハビリテーションの視点に基づく地域づくり支援～

③ ミニ講座のテーマ等

ミニ講座のテーマ	ミニ講座のテーマ
<p style="text-align: center;">疾病理解・治療等</p>	<p style="text-align: center;">障害理解</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 進行性神経難病疾患であるALS患者の身体状況の変化について • 筋萎縮性側索硬化症について • ALSのリハビリテーション • 大脳皮質基底核変性症（CBD） • 関節リウマチの疾患特性 • 脊髄損傷 • パーキンソン病のリハビリテーション • 閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 COPD、間質性肺炎の病態生理 • 在宅で行える呼吸リハビリテーション • 先天性障害者の高齢化に伴う二次障害について • 脳性麻痺の頸椎症性脊髄症～医学的観点より～ • 痛みの治療について • 廃用症候群の見分け方 • 失語症者の社会復帰の現状と課題 • 摂食・嚥下障害と口腔ケア • 要介護高齢者の口腔における病態生理と口腔ケア • 心のケアについて 	<ul style="list-style-type: none"> • 知的障害について • 視覚障害者の現状 • 視覚障害を理解するために • 視覚障害者の特性と生活ニーズ • 文字盤を使ったコミュニケーションについて • ALS患者から伝えたいこと • 活動障害の原因と対応方法 = 調理活動の場合 = • 障害受容をめぐって • 生活全般を捉えるために = ICFの活用 = • その人らしい生活を支えていくための家族理解の仕方 • 失語症を知ってください • 決定を支える支援～当事者の力とピアサポート～

ミニ講座のテーマ
制度・サービス関係
<ul style="list-style-type: none"> • 支援費制度と介護保険 • 地域福祉権利擁護サービスについて • 障害者総合支援法における就労支援 • 住宅改修について • 訪問給食サービス、緊急通報システムについて • 経済的な社会保障制度について • 地域における老健施設の役割、老健施設の今後 • 小規模多機能型居宅介護サービスの現状と課題 • 地域支援コーディネーターについて • 支え合いの輪を広げる～地域支援コーディネーターの活動を通じて～ • その人らしい"暮らし"を支える通所リハ • 介護保険制度の改正について • 障害に応じた通所サービスの工夫 • 平成24年度介護報酬改定について～通所リハの基準・報酬について～ • 生活行為向上マネジメントについて • 在宅ケアチームにおける訪問看護の果たす役割 • ストレングスを活用したケアマネジメントとケアマネジャーの役割 • リハ会議の有効活用～居宅サービスにおける多職種協働の推進～ • 呼吸リハビリテーションにおける管理栄養士の関わり • 進行性重度障がい者を支える地域リハビリテーション～食支援を通じて言語聴覚士の立場から～

ミニ講座のテーマ
社会資源等
<ul style="list-style-type: none"> • ALSに関する社会資源情報 • 脳外傷友の会「ふらむ」について • ピア・カウンセリングって何？ • 民生委員の活動について • 医療と介護の連携に関する調査報告
行政関係
<ul style="list-style-type: none"> • 行政の役割について • 区役所での栄養改善事業について • 北九州市における高次脳機能障害支援事業について • 北九州市難病相談支援センターの取り組みについて • 北九州市の地域づくり・まちづくりの仕組み～まちづくりを担う組織を知ろう～ • 福岡県身体障害リハビリテーションセンターの取り組みについて
その他
<ul style="list-style-type: none"> • 「よく使われるリハ用語」の解説 • 個人情報保護法について＝ケア会議における注意点＝ • 災害時要援護者の安全確保対策

④ 特別講演会、特別セミナー等

日時	講演テーマ等	演者名
特別講演会 平成18年3月6日	阪神大震災の教訓を活かしたユニバーサル社会の形成	兵庫県立総合リハセンター 顧問・名誉院長 澤村誠志
特別セミナー 平成19年2月24日	地域リハビリテーションと介護予防	熊本リハ病院 山鹿眞紀夫氏、 石川県村井千賀氏 他
特別講演会 平成19年3月12日	リハビリテーションに関する連携の取り組み～急性期から回復期、維持期 (在宅) まで～	北九州市リハビリテーション 支援体制検討委員
特別セミナー 平成19年11月17日	福祉用具の活用・生活環境整備の考え方	横浜市中心山福祉機器支援 センター 松葉貴司氏
特別セミナー 平成20年1月10日	障害者・高齢者を地域で支えるための家族支援論	障害福祉センター大丸幸氏、 小倉リハ病院 浜村明德氏
特別セミナー 平成20年12月9日	医療と地域生活の連携を考える = MSW、ケアマネジャーからの提言 =	九州労災病院 MSW大塚 文氏、他
特別セミナー 平成21年1月28日	訪問リハビリテーションに期待したいこと	在宅ナースセンターはんずあ い Ns高橋貴子氏、他
特別セミナー 平成21年12月15日	第2弾 訪問リハビリテーションのうまい活用について	芳野病院OT井上愛氏、他
特別セミナー 平成23年3月24日	切れ目のないリハビリテーション（地域連携パスの活用）	障害福祉センター所長 大 丸幸氏、他
10周年特別記念講演会 平成25年10月29日	地域包括ケアとは何か－これまでの地域包括ケア・地域リハへの取り組みと展望－	公立みつぎ総合病院特別 顧問 山口昇氏
特別セミナー 平成26年12月16日	地域包括ケア会議に向けてリハビリテーションの果たす役割 基調講演：地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議の位置づけ 特別講演：地域包括ケアと地域リハビリテーション	地域包括ケア推進担当課 長 清田啓子氏 小倉リハ病院名誉院長 浜 村明德氏

日時	講演テーマ等	演者名
特別セミナー 平成28年2月16日	その人らしい暮らしを支援する地域活動～介護予防と社会参加に着目して～ 基調講演：地域包括ケアの推進とリハビリテーション	小倉リハ病院名誉院長 浜村明徳氏、他
特別セミナー 平成28年12月6日	その人らしい暮らしを支援する～認知症支援に着目して～	認知症支援・介護予防センター 猪原弘行氏、他
特別セミナー 平成29年12月14日	地域包括ケアの時代の地域づくり活動～われわれにできること～ 基調講演：地域包括ケアシステムにおける地域リハの役割	医療法人真正会 理事長 斉藤正身氏、他
特別セミナー 平成31年1月16日	若年中途障害者の20年を振り返って～医療リハビリテーションから地域生活へ～ 講演：若年中途障害者への社会復帰支援その後—継続した総合的チームアプローチ—	安川エンジニアリング株式会社 和田潤弥氏、他
特別セミナー 令和元年8月27日	障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり 講演：障害があっても安全・安心にスポーツに取り組むことができる環境づくり	北九州市障害者スポーツセンターエリア 障害者スポーツ指導員 田中八恵氏、他
50回記念シンポジウム 令和6年1月27日	誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり 期待される地域リハビリテーションとは？	日本リハ病院・施設協会会長 斉藤正身氏

【20年間の研修・情報提供内容のまとめ】

	内容
取り上げた疾患等	頭部外傷、脳卒中、高次脳、頸損、難病等、骨折、呼吸、廃用、嚥下障害 等
取り上げたテーマ等	その人らしさの支援、多職種連携、地域連携、サービス、地域づくり 等
ミニ講座のテーマ等	疾病理解・治療、障害理解、制度・サービス関係、社会資源等、行政関係 等

3. 地域リハビリテーションケース会議の目的・役割と特徴

【ケース会議の目的・役割】：①情報共有・収集の場、②施設・職種間連携の場
③生涯教育の場

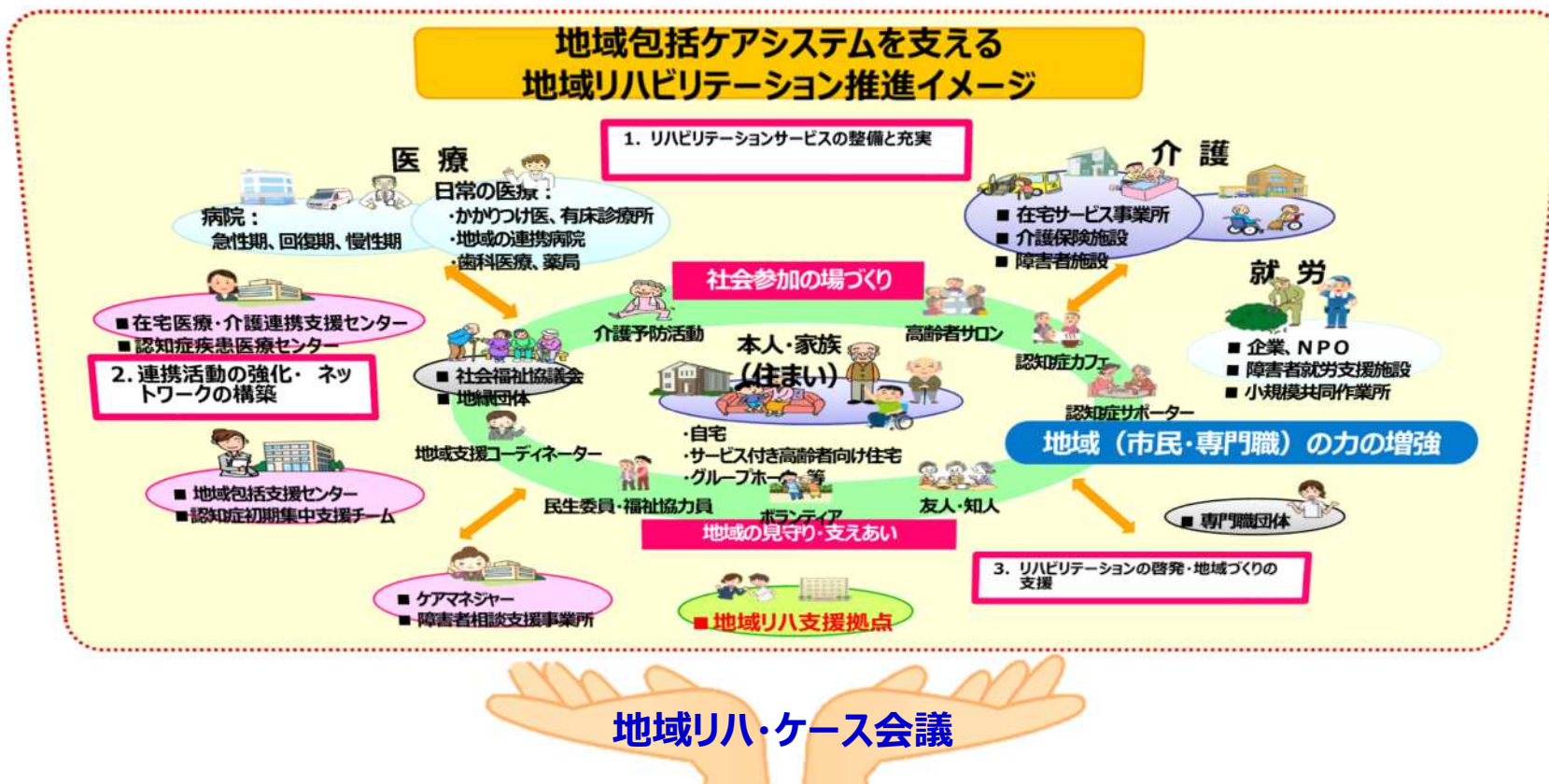
【ケース会議、5つの特徴】

1. 行政（地域リハ推進課）が事務局を担当、継続に努めてきたこと
 - ・ 現場の協力でケースを紹介、ミニ講座等で事例のテーマや関連する事項の講義など準備に時間をかけて行ってきた
2. リハ・ケアに関わる各職種、機関等、関係者の参加があること
 - ・ 参加者は職種横断で、20年間継続して開催できた
 - ・ 参加者は代わるが、続けられたことで目的が徐々に達成されてきたと思われる
3. 様々なケースを取り上げ、疾病と障害、その支援過程などを紹介できたこと
 - ・ ケースを通して、多様な疾患や障害等に関し理解しやすいよう情報提供してきた
4. ミニ講座等を通して、ケースに関する要点等を分かりやすく解説できたこと
 - ・ ミニ講座等では、産業医科大学リハ科をはじめテーマに造詣の深い関係者の協力が得られてきた
5. 市全体の連携を促進し、ネットワークの構築を目標の一つとしてきたこと
 - ・ 市内のサービス拠点の紹介などを通して、連携網の構築につながるよう目指してきた

4. 地域リハビリテーションケース会議の成果

1. リハ・ケアの基本的な考え方を理解できた
 - ケースやミニ講座等を通して、リハ・ケアの基本を学び、それを多職種が共有できた
2. 標準的なサービスの流れ、支援のあり方を知ることができた
 - 困難ケースでもサービスの標準的な治療・リハ・援助の流れが理解できた
3. 地域にどのようなサービスがあり、誰がいるかが分かった
 - 地域にある諸サービスの情報を獲得でき、その後の対応に生かしている
4. さまざまな情報の共有ができた
 - 多職種での情報共有は、地域の支援チームづくりの一助となった
5. 医療と介護、福祉など専門職間における共通理解の獲得に役立った
 - 介護保険施行直後からの取り組みであり、多くの関係者が共通の理解を得ることに貢献してきた
6. 障害のある人々を地域全体で支える価値の共有に貢献した
 - 機関・拠点中心の支援から、市民を含む地域全体で支えることの意義、ひいては地域リハの包摂社会や地域包括ケアシステムの地域共生社会づくりを目標とする方向性の理解につながった

地域リハケース会議が当市の地域リハシステム構築を支える



【地域リハケース会議、参加者の力】

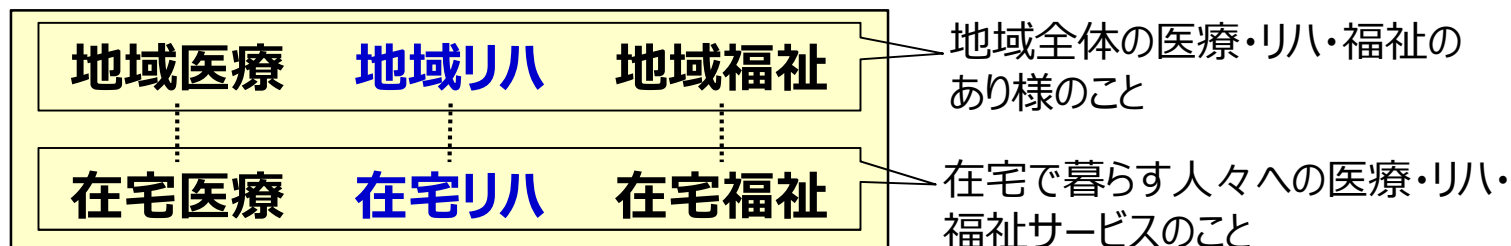
- ・ リハ・ケアの基本的な考え方を理解し、サービスの流れや対応のあり方を知っている
- ・ 様々な情報の共有し、医療と介護、福祉など専門職間で共通の理解がある
- ・ 地域にどのようなサービスがあり、誰がいるかが分かり、地域連携に取り組んでいる
- ・ 障害のある人々を地域全体で支える価値を共有している

5. 今更ではあるが、そもそも「地域リハとは・・・」

【地域リハビリテーションの定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、**住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活**ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び**地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織**がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。

□ 関係領域との整合性が求められる、地域リハと在宅リハの関係



※「在宅リハとは、障害があり在宅で暮らす人々に対し、リハの立場から行われる通所リハや訪問リハなどのサービスを指す」（浜村）

「地域リハは在宅リハと同じではない」



【地域リハビリテーション推進課題】

1. リハビリテーションサービスの整備と充実

- ① 介護予防、障害の発生・進行予防の推進
- ② 急性期・回復期・生活期リハビリテーションの質の向上と切れ目のない体制整備
- ③ ライフステージにそった適切な総合的リハビリテーションサービスの提供

2. 連携活動の強化とネットワークの構築

- ① 医療介護・施設間連携の強化
- ② 多職種協働体制の強化
- ③ 発症からの時期やライフステージにそった多領域を含むネットワークの構築

3. リハビリテーションの啓発と地域づくりの支援

- ① 市民や関係者へのリハビリテーションに関する啓発活動の推進
- ② 介護予防にかかわる諸活動を通じた支えあいづくりの強化
- ③ 地域住民も含めた地域ぐるみの支援体制づくりの推進

① 「サービスの在り方、切れ目のない体制整備」が大前提

- ※ 急性期・回復期・生活期におけるリハの質の向上、その人らしさへの支援と切れ目のない体制、小児等では総合的リハサービス等の在り方など、在宅リハはここに含まれる

② 推進には、「連携活動の強化とネットワークの構築」が極めて重要

③ 「リハの啓発と地域づくりの支援」（地域の包摂性を高める活動）が不可欠

- ※ 地域づくりは地域リハの一つの活動

「地域リハは地域づくり活動だけでもない」

6. これから、当市の地域リハ推進課題とケース会議の役割

1. リハビリテーションサービスの整備と充実

【現状】：当市におけるリハサービスの提供機関は急性期・回復期・生活期とも整っている

【課題】：これからの課題は、その**サービスの質**になるのではないか

【ケース会議の役割】：急性期リハの充実、回復期と生活期リハのあり様には課題があると思われ、ケース会議がその一助となるよう継続したい

2. 連携活動の強化とネットワークの構築

【現状】：当市の連携活動は盛ん、ネットワークも以前に比べ充実、整いつつある

【課題】：後述する生活期の**サービス提供機関・事業所等間の連携**に課題があると思われる

【ケース会議の役割】：今後もケース会議を通して、ネットワークの構築に寄与したい

3. リハビリテーションの啓発と地域づくりの支援

【現状】：「リハ＝訓練」ではない、啓発活動は今後とも必要と思われる

【課題】：リハ資源の多さを生かして、**地域づくり活動の拡大と充実**が期待される

【ケース会議の役割】：地域リハ支援センターと協力機関が中心となり、市民を含めた地域づくり活動の発展が期待され、ケース会議はその底支えをしたい

7. 我々が目指すべき先は・・・今後の課題

リハ、ケアのあり様を問いながら進みたい

「**地域包括ケアシステム**の姿」では、「・・・**自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける**ことができるよう・・・」

「**地域リハの定義**」は、「・・・**その人らしくいきいきとした生活ができるよう**・・・」

□「**その人らしさの支援**」は、**ケアとリハの一丁目一番地**

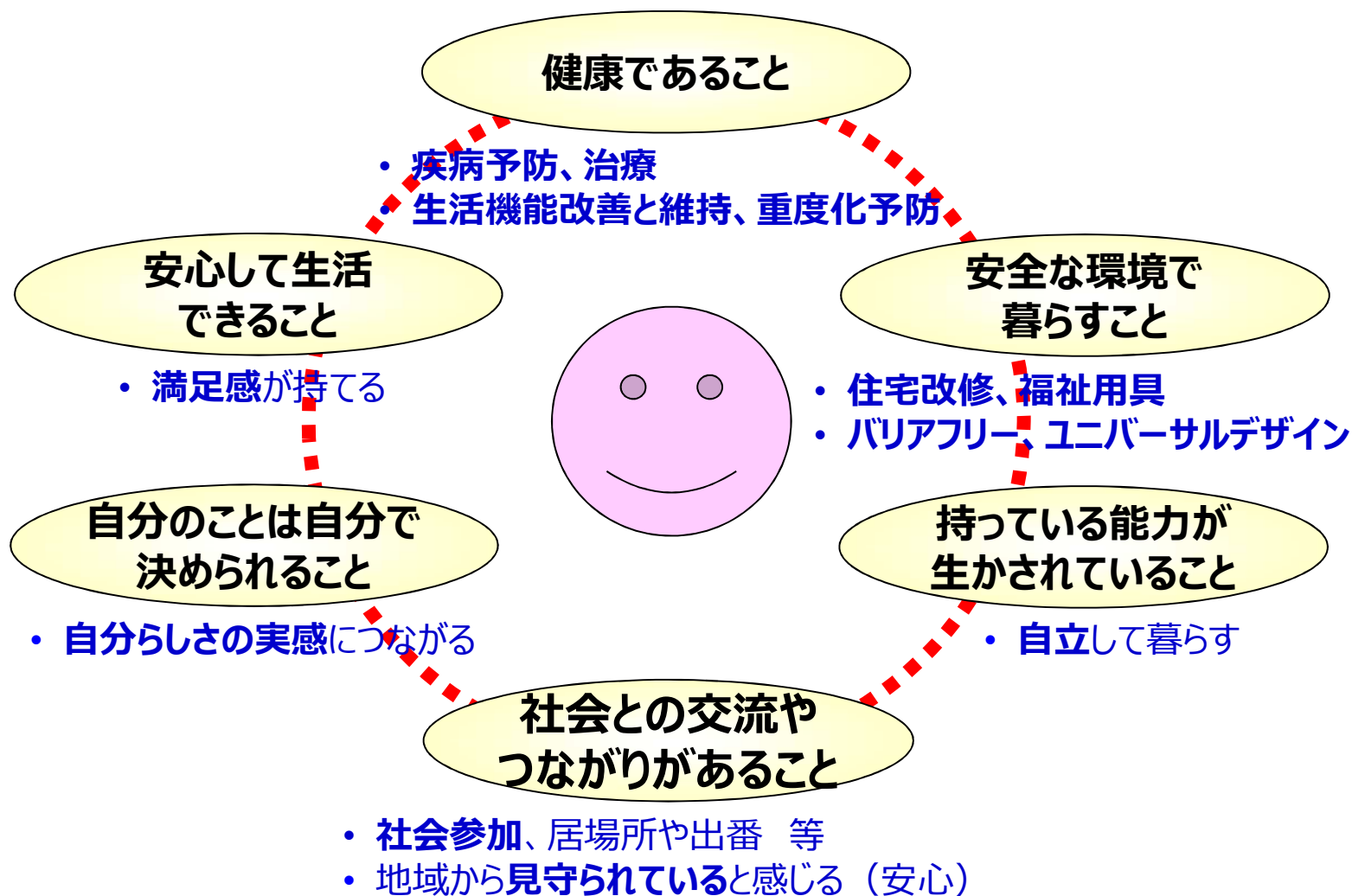
【**地域包括ケアシステムの姿**】

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で**自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう**、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される**地域包括ケアシステム**の構築を実現

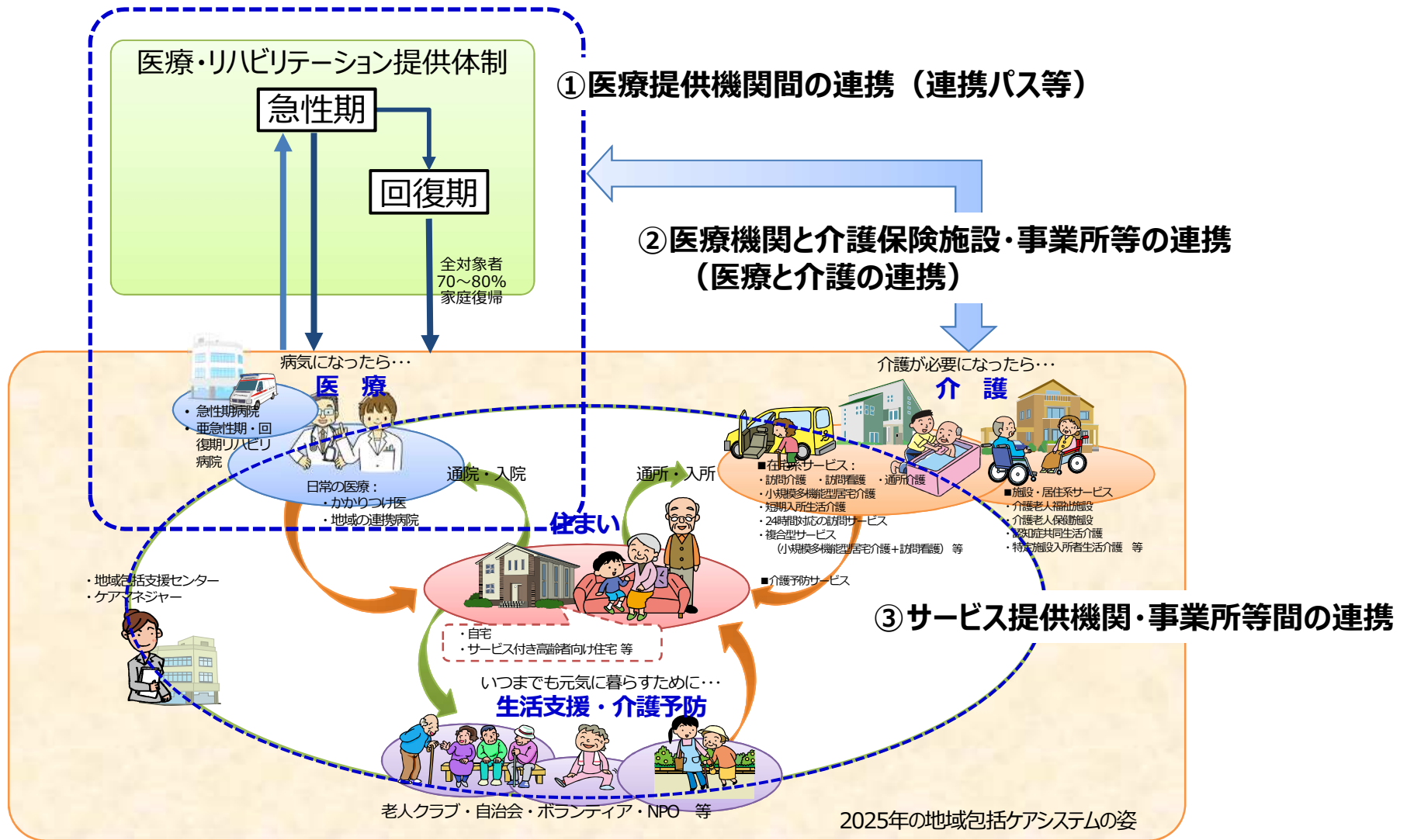
① 住み慣れた地域で『自分らしく生き生きらす』ために

“自分らしく、どう生きるか”は、その人が決めるしかないが・・・

“障害を抱えても、ありのままの自分、納得する生活をおくるための支援要件”



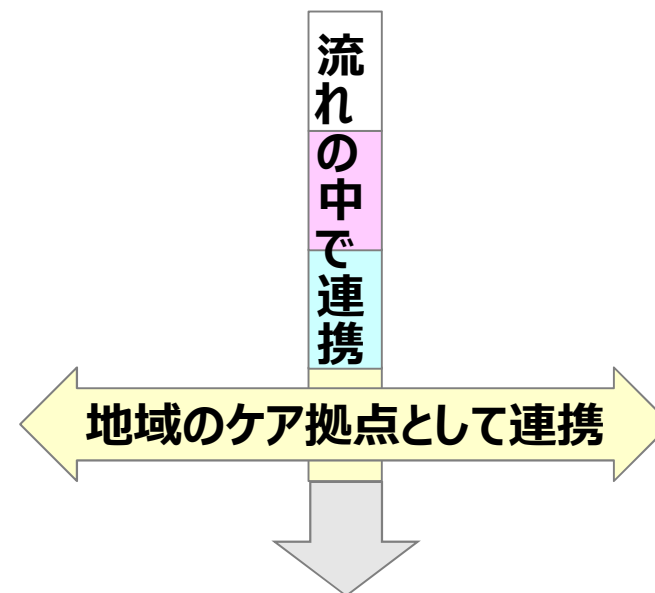
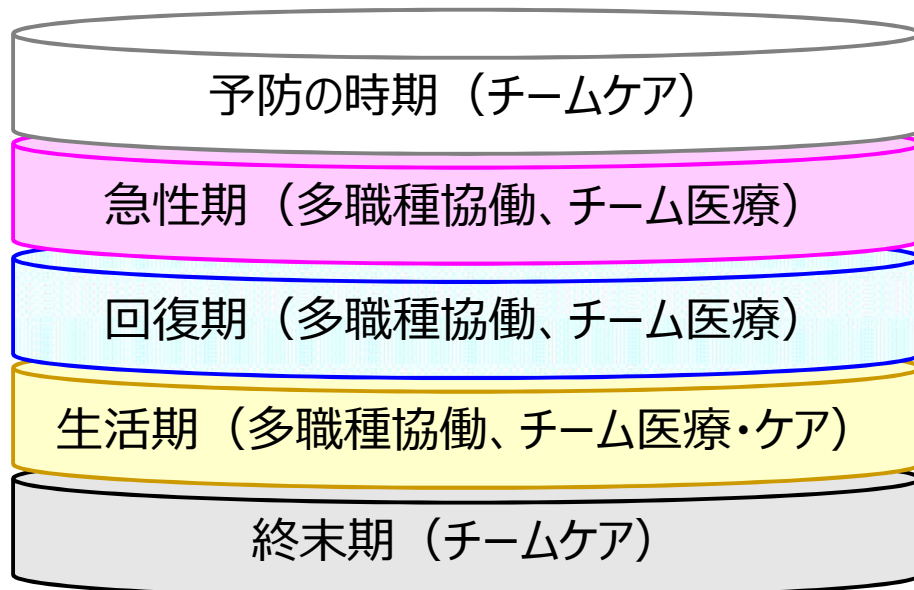
② 地域包括ケア・地域リハにおける連携課題



多職種協働・連携、チーム医療・ケアと地域連携の課題

各ステージで**多職種協働・連携、
チーム医療・ケア**が課題

地域におけるケア拠点として
地域連携が重要



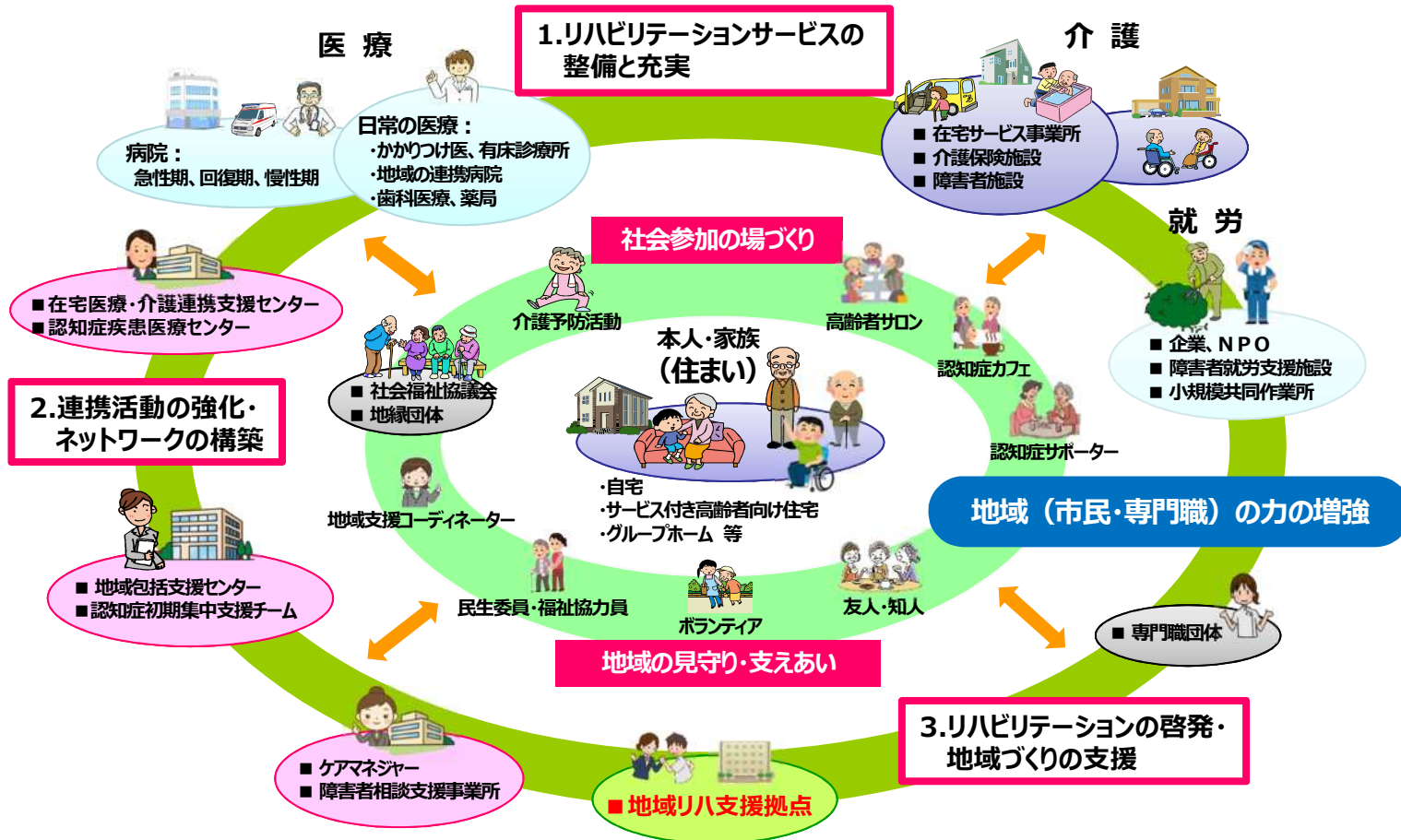
- 地域包括ケアシステムの構築には、全てのステージ、**チームで動くこと**、地域全体の「**縦横の地域連携**」が**重要**と考える
- とくに、生活期における**横の連携・チームづくりが課題**（サービスの質の向上、効率性につながる）になると思われる

③ 北九州市の地域リハ体制と地域づくりの推進

地域包括ケアシステムを支える 地域リハビリテーション推進イメージ

〔本人・家族を中心とした重層的な支援の輪〕

- 地域の中での見守り・支えあいのつながりや社会参加、居場所（市民の輪）
- 地域への働きかけができる専門職人材の育成や関係者間のネットワーク（専門職の輪）



R3年度「地域リハ支援センター」2か所設置

□ まとめに代えて

- 包摂社会や地域共生社会を目指すとしても、その活動は多岐に及び、雲をつかむようで成果を確かめることが難しい。
- しかし、鷺田は言う、『私たち一人ひとりが、できるだけ長く、答えが出ない、出せない状態のなかにいつづけられる肺活量をもつこと…』と。（「濃霧の中の方向感覚」）
- 超高齢社会、経済の低成長、分断と孤立化など、社会は難題を抱え、**包摂社会づくりはSDGs**持続可能な開発目標**とも絡み喫緊の課題**と考えられる。
- 地域リハは、自分らしく生きることや孤立化防止など**その一端を担う活動**となる。

浜村の解釈 肺活量：活動し続ける力

ご清聴、誠にありがとうございました